

今回の台風による被害につきましては、既に市では損壊箇所の復旧やポンプ車の導入など、いざ災害が起きた時の対応に向けて動いております。
 しかしながら、まだ被害があった地域の根本の原因究明・解決には至っておりません。
 私自身は、被害が起きた地域の一つ一つの原因を究明し、解決するために行動してまいります。
 被災地の1日も早い復興と、被災された方々が1日も早く日常生活を取り戻せるように祈念しております。

皆様の声がかたきになりました！



南古谷北口近辺水路沿い市道。道が狭い上、この先に子供が多い住宅街があるにも関わらずスピードを出す車が多いとの要望に対しまして、通行車両への注意喚起の路面標示を設置して貰いました。

岸町1丁目踏切近辺。通学路の排水が悪く、子供達が水溜りを避けて車道にはみ出して通学しているとの要望に対してまして、雨水マスを設置して貰いました。



栗原みつはる プロフィール

昭和46年6月9日川越市岸町生まれ(46歳)、仙波小学校、砂中学校卒業
 1990年3月 城北埼玉高等学校卒業 2014年11月 ワタミの介護(株)退職
 1994年3月 立教大学経済学部経営学卒業 2014年12月 SKYケアサービス(株)設立 取締役
 1994年4月 カナダへ2年間語学留学 2015年4月 川越市議会議員選挙に挑戦し、次点にて惜敗
 1997年1月 (株)ユーセンス入社 2017年1月 川越市議会議員に当選(1期)
 2001年5月 ワタミフードサービス(株)入社 保健福祉常任委員会、介護保険審議会
 営業部長まで務め経営・サービスを学ぶ 国民健康保険運営協議会、タブレット委員会
 2012年9月 ワタミの介護(株)へ転籍 2017年9月 MKコンシスト(株)設立 取締役
 有料老人ホーム エリアマネージャー デイサービスリーディング岸町(川越市)

ご意見・ご感想・皆様の声をお聞かせください！

南古谷事務所 〒350-0023 川越市並木77-8 携帯：090-6509-2419、電話：049-235-8425
 岸町事務所 〒350-1131 川越市岸町1-25-18 電話：049-247-7701

2017年12月発行

川越市議会議員

栗原みつはる 議会報告

～未来へのまちづくり～ Vol.4

介護保険事業計画等審議会報告

現在川越市では、65歳以上の人口91543人、高齢化率25.97%となっており、約4人に1人が65歳以上の高齢者という現状です。

今後平成37年(2025年)には、団塊の世代が75歳を迎え高齢化はさらに進行してまいります。

高齢者人口の推移見込み (単位：人)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
総人口	349,378	350,223	351,654	350,744	350,738	350,515	347,020
65歳以上	84,779	87,627	89,916	91,398	92,778	93,702	95,682
高齢化率	24.3%	25.0%	25.6%	26.1%	26.5%	26.7%	27.6%

このような状況の中、地域社会では高齢者をめぐる様々な問題が浮かび上がっています。
 ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者のみの世帯の増加、認知症高齢者・買い物難民の増加、老老介護、要介護者の増加、空き家の増加、介護離職、高齢者虐待、などへの対応が課題となっています。

高齢者の世帯状況 (単位：世帯)

区分	世帯数	構成比
総世帯	155,756	100.0%
高齢者のみで構成される世帯	38,154	24.5%
内訳		
高齢者ひとりの世帯	19,863	12.8%
高齢者夫婦のみの世帯	17,511	11.2%
その他の高齢者のみの世帯	780	0.5%

総世帯数155,756世帯のうち、高齢者のみの世帯数は38,154世帯で24.5%を占め、約4軒に1軒が高齢者のみの世帯となっています。

要介護・要支援認定者数の推移 (単位：人)

	平成12年	平成15年	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成29年
要支援	353	604	985	1401	2329	2924	3102
要介護	3240	5245	6650	7879	8520	9529	10477
合計	3593	5849	7635	9280	10849	12453	13579

介護保険制度が開始した平成12年と比べて、平成29年の認定者数は3.77倍となっています。

第1号被保険者（65歳以上）の年齢階層別要介護・要支援認定者の割合を見ると、75歳を超えると、それまでの4.2%から17.6%へと認定率が高まり、特に85歳以上になると57.6%と人口の半数以上が要介護・要支援認定者という状況となっています。

平成37年には、65歳～74歳人口が38790人、75歳～84歳人口41178人、85歳以上人口15714人と見込まれていることから、単純に現在の認定率を鑑みますと $(38790人 \times 4.2\%) + (41178人 \times 17.6\%) + (15714人 \times 57.6\%) = 17927人$ となるのが推測され、平成29年と比べて認定者数は約1.32倍となります。

また厚労省では、認知症を患う人の数が平成37年(2025年)には700万人を超えるとの推計値が発表されています。これは、65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症に罹患する計算となります。川越市においても平成29年4月1日現在7771名の方が罹患しており、仮に国の見込みを平成37年の川越市の推計人口に当てはめると、約19000人となる見込みであって、現在の約2.44倍となります。

こうした状況を踏まえまして、現在介護保険事業計画等審議会におきまして、川越市高齢者保健福祉計画・第7期川越市介護保険事業計画としまして『第7期（H30～H32）すこやかプラン・川越』の策定を進めております。

このような背景を鑑み、私としては重点的に実施していくべきものとして以下を考えております。

重点施策①生きがいづくりの促進

核家族化によって高齢者のみの世帯数が4軒に1軒となっております。また高齢者が増加しているにも関わらず、老人クラブ会員数は年々減少しています。

高齢者がいつまでも自宅で1日でも長く元気よく暮らすためには健康であることが大前提ですが、そのためにはもっともっと外に出て外部とのコミュニケーションを取ることが重要だと考えます。

外に出ることによって運動にもなり、人と会話をすることによって認知症予防にもなり、サークル活動などを通して生きがい作りにもなるのではないのでしょうか。

市では、介護予防教室など様々な事業を実施していますが、本当に必要な方は自ら積極的に外に出られない方への支援であり、今まで仕事ばかりで地域との繋がりが無かった方が、地域活動や趣味活動等に参加して地域との繋がりを持てるようにすることが重要ではないでしょうか。

地域全体で老人クラブへの加入促進を行うと共に、65歳～74歳までのアクティブシニア世代にはシルバー人材センターなどを通して就労促進や多様化する趣味活動への支援、自治会等への参加で若いうちから外に出る環境作りを進めていくべきと考えます。

重点施策②新しい交通施策の拡充

現在川越市では交通空白地帯として、駅から半径800m、バス亭から半径300m以外の地域を交通空白地帯として定義しております。そしてそれを埋めるために川越シャトルを運行しておりますが、交通空白地域全体をカバーするのは困難な状況です。

高齢化を鑑み、**新たな交通手段の構築が喫緊の課題**です。運行方式・ダイヤ、発着地の自由度が高い乗り合いタクシー・バスなどのような**デマンド型交通を整備していくべき**と考えます。

重点施策③在宅医療・介護連携の推進

多くの高齢者が、自宅で最期を迎えたいと考えています。ですが現実には7割以上の方が病院で最期を迎えています。その問題点は何なのでしょう。

それは、**在宅医療・在宅介護の基盤整備**をしっかりと推進することであって、その上で医療と介護の連携が必要不可欠です。現状の医療・介護資源をしっかりと把握して、地域ごとに不足する資源を**計画的**を持って2025年に向けて整備していくべきと考えます。

また在宅医療・介護を受け、自宅での看取りをするとはどういったことなのか、問題点は何か、ということの**市民への理解促進をより積極的に行っていくべき**と考えます。

重点施策④認知症に対する理解促進

現代では認知症は不治の病であり、包帯をぐるぐる巻きにしていけないので一見健常者に思われがちだからこそ、市民一人ひとりの認知症に対する理解が不可欠です。

自治会、民生委員、隣近所で認知症高齢者の情報共有を行い、地域で見守る、支援する体制を作っていくことこそが地域包括ケアシステムであり、施策③④⑤を実現するためにも**地域包括ケアシステムの構築を早急に**進めていくべきです。

また核家族化によって子供たちが高齢者と接する機会も減っていることから、**小中学生に対して認知症、高齢者の理解促進を同時に**進めていくべきと考えます。

重点施策⑤災害時要支援者避難施策

近年の集中豪雨や先の台風21号での被害、首都直下型地震の予測等を見ても、災害は今や以前にも増して身近な問題です。

そして、いざ起きた時に一番困るのが高齢者や障がい者などの要支援者の避難です。

自主防災組織確立や日頃からの要支援者情報共有、避難訓練等の準備、市としての災害準備態勢の構築、ボランティア受援計画策定などを優先的にすべきと考えます。

◆ 台風21号によって被災された方に心からお見舞い申し上げます。

昨年(2024)の10月21日(土)～22日(日)にかけての台風21号によって、寺尾地区を中心とした市内多くの箇所で浸水被害が発生しました。

下記のような甚大な被害が出ております。

12月18日(月)9:00現在

【床上浸水】246件(うち半壊4件)

- ・ 寺尾地区 238件(うち半壊4件)
- ・ 岸町1丁目 5件
- ・ 山田 2件
- ・ 南田島 1件

【床下浸水】234件

- | | |
|-------------|----------|
| ・ 寺尾地区 188件 | ・ 府川 3件 |
| ・ 岸町1丁目 28件 | ・ 菅間 2件 |
| ・ 山田 4件 | ・ 南田島 1件 |
| ・ 木野目 3件 | ・ 砂 1件 |
| ・ 下新河岸 3件 | ・ 寺山 1件 |